



ThreeBond



2021

JAPANESE SUPER FORMULA CHAMPIONSHIP SERIES

ROUND.2

RACE REPORT



SUZUKA CIRCUIT

HONDA

YOKOHAMA

ROKiT

BANDERO
Premium Tequila

@MAISYKAY

KS Material

NGK
SPARK PLUGS

QMI
beyond the invisible



3M

KAJIMA

Hone
Exceed expectations

MOTUL

Swift

ODYSSEY

KRS
KTEL RACE SERVICE

WPC

SHIBA LINING JAPAN
advanced technology products

TONE



リボバンド



鬼門 SUZUKA

2021 年度全日本スーパーフォーミュラ選手権第2戦が、4月24日(土)～25日(日)にかけて三重県の鈴鹿サーキットで開催された。

4月に富士スピードウェイで開催された第1戦以降、タチアナ・カルデロン選手(以下、タチアナ選手)は日本国内にとどまり、トレーニングを続けて第2戦に備えた。

鈴鹿サーキットはカルデロンにとって、憧れのグランプリサーキット。

ThreeBond DragoCORSE とカルデロン選手は、体力的にもハードな攻めがいのあるコースでのレースに臨んだ。

公式予選

今回、チームは新しい考え方に基づいて持ち込みセッティングを施して鈴鹿に持ち込んだが、24日(土)午前中に行われたフリー走行を走り始めるとアンダーステア傾向が強くなってしまい、決して乗りやすいマシンの状態ではないことが判明した。

そこでチームはフリー走行を通してセッティングやカルデロン選手の走り方などを調整しながら状況を確認、午後の公式予選には大きくセッティングを変更して備えた。

薄曇りの空の下、公式予選が始まった。

カルデロン選手は午後3時30分から10分間行われる予選Q1セッションB組に出走した。

走り出した後に、セッティングを変更したマシンの操縦性をカルデロン選手は「すごく良い」と感じたが、短い予選セッションの中で1ラップのタイムアタックをまとめることができず、タイムは1分39秒189に終わって開幕戦に続くQ2セッション進出はならなかった。

この結果、カルデロン選手のスターティンググリッドは全19台中19番手グリッドに決定した。

予選結果

順位	ゼッケン/氏名 タイム
1	#5 福住 仁嶺 1'36.449
2	#16 野尻 智紀 1'36.645
3	#65 大湯 都史樹 1'36.673
19	#12 タチアナ カルデロン 1'39.189



決勝レース

25日(日)、鈴鹿サーキットの上空は晴天となり気温は23度、路面温度は31度と、この週末最も高くなった。

昨年、鈴鹿サーキットでレースが行われたのは真冬の12月第1週で、タイヤのウォームアップもままならない時季だったが、今回は気温、路面温度とも上がってタイヤのマネージメントについては全く異なるノウハウが求められ、経験のないカルデロン選手にとっては厳しい条件となった。

午後2時30分、周回数30週の決勝スタートが切られた。

スターティンググリッドで上位の車両がエンジントールを起こし最後尾へ回ったため、カルデロン選手は18番手からスタートしたがオープニングラップのうちに19番手へ順位を落としてレースを始めた。

9周目、トップの車両がタイヤトラブルでレースから脱落。カルデロン選手の順位は18番手に繰り上がった。チームはここで早めのタイヤ交換を行うことに決め、10周終了時点でカルデロン選手をピットに呼び、タイヤ交換を行って再びコースへ送り戻した。

次の周回、前を走っていた大嶋選手がタイヤ交換のためにピットイン、カルデロン選手はその間に大嶋選手の前に抜け出し、アンダーカットしてオーバーテイクに成功、実質の順位を1つ上げることとなった。

その後、16周目にもレースから脱落した車両が発生したため、カルデロン選手の順位は16番手に繰り上がり、後方を走る大嶋選手をpushし込むレース展開となった。

しかし20周目、ストレートで大嶋選手の先行を許して順位を1つ下げた。その後、カルデロン選手は17番手のまま、残り10周を走り切り、完走のチェッカーフラッグを受けた。

シリーズ第3戦は5月15日(土)~16日(日)、大分県オートポリスで開催される予定だが、カルデロン選手は5月1日にベルギーのスパ・フランコルシャン・サーキットで開催される世界耐久選手権シリーズ第1戦に出走するため一旦日本を離れた。現時点では再入国のための隔離期間がシリーズ第3戦のレースウィークにかかってしまうので、レース出走に向け各方面と調整中である。



ドライバー（タチアナ・カルデロン）コメント

今週末は、路面温度が高くなったこと、タイヤの使い方の理解が十分でなく、タイヤに負荷をかけすぎてしまったことなどがあって、ペースがあまり上がりませんでした。また、なぜかトップスピードが思うように伸びず、ストレートで簡単に後方からのオーバーテイクを許してしまう状況で苦しいレースとなりました。前回の富士でのレースは調子が良かったのですが、鈴鹿は非常に特殊でチャレンジングなコースで、高速コーナーでグリップが足りないように感じて自信を持って走ることができませんでした。このような結果でレースを終えたのはとても残念です。今週末、何が起こったのかを理解するために、もっと努力します。次のレースは、14日間の検疫が問題ですが、私たちもアスリートでありプロフェッショナルなので、オリンピック選手と同じような例外措置をとってほしいと願っています。



監督（道上龍）コメント

今週末は全セッションであまりいいパフォーマンスが見せられませんでした。前回Q1を突破して決勝でもいいバトルができていたので楽しみにしていましたが残念です。チームとしてはできるだけのことをやった結果です。鈴鹿はやはりチャレンジングで難しいコースですから、攻め切れていない面があったように感じます。第3戦のオートポリスは昨年も走っていますし、良いレースもしていたので期待はしています。問題は再入国時に必要な14日間の隔離に2日ひっかかってしまうことで、それをどう判断してもらうか、対応を待っている状態です。



エンジニア（伊与木仁）コメント

路面温度の高い鈴鹿では、タイヤにかかるストレスも大きいので、経験のないタチアナ選手には厳しい週末になりました。前回の富士で良い感じでしたし、その後シミュレータートレーニングでも良い調子だったので、彼女は楽しみにしていたようで、予選結果には落ち込んでいました。決勝ではタイヤ交換後のペースは良かったのですが、後半、タイヤに違和感を訴えてきました。タイヤトラブルが他チームで出ていたので心配しましたが無事完走できて良かったです。



レース結果

Pos	No	Driver	Team	Time
1	16	野尻智紀	TEAM MUGEN	56'53.047
2	20	平川亮	carenex TEAM IMPUL	56'54.500
3	6	笹原右京	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	56'57.234
4	19	関口雄飛	carenex TEAM IMPUL	57'02.963
5	15	大津弘樹	Red Bull MUGEN Team Goh	57'03.570
6	37	宮田莉朋	Kuo VANTELIN TEAM TOM'S	57'04.903
7	38	坪井翔	P.MU/CERUMO・INGING	57'07.825
8	1	山本尚貴	TCS NAKAJIMA RACING	57'07.828
9	36	Giuliano Alesi	Kuo VANTELIN TEAM TOM'S	57'08.151
10	64	大湯 都史樹	TCS NAKAJIMA RACING	57'09.349
11	39	阪口晴南	P.MU/CERUMO・INGING	57'12.155
12	3	山下健太	KONDO RACING	57'14.490
13	51	松下信治	B-Max Racing Team	57'15.231
14	4	中山雄一	KONDO RACING	57'15.700
15	14	大嶋和也	NTT Communications ROOKIE	57'15.427
16	7	小高一斗	KCMG	57'18.963
17	12	Tatiana Calderón	ThreeBond DragoCORSE	57'22.411



Drivers Ranking

順位	ドライバー	合計	有効ポイント	1	2	3	4	5	6	7
				富士	鈴鹿	AP	SUGO	もてぎ	岡山	鈴鹿
1	野尻智紀	45	45	3+20	2+20					
2	平川亮	23	23	8	15					
3	大湯 都史樹	19	19	2+15	1+1					
4	笹原右京	18	18	3+6	11					
5	福住仁嶺	14	14	11	3(QF)					
6	宮田莉朋	9	9	4	5					
7	関口雄飛	8	8	0	8					
8	山本尚貴	8	8	5	3					
9	大津弘樹	6	6	0	6					
10	坪井翔	4	4	0	4					
...										
12	Tatiana Calderon	0	0	0	0					

*表中ポイント数字の左側：予選ポイント 右側：決勝ポイント

Team Ranking

順位	チーム	合計	有効ポイント	1	2	3	4	5	6	7
				富士	鈴鹿	AP	SUGO	もてぎ	岡山	鈴鹿
1	TEAM MUGEN	40	40	20	20					
2	carenex TEAM IMPUL	31	31	20	23					
3	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	28	28	17	11					
4	TCS NAKAJIMA RACING	24	24	8	4					
5	Kuo VANTELIN TEAM TOM'S	11	11	4	7					
6	Red Bull MUGEN Team Goh	6	6	0	6					
7	P.MU/CERUMO・INGING	6	6	2	4					
8	KCMG	3	3	3	0					
...										
12	ThreeBond Drago CORSE	0	0	0	0					

